

## NPO法人 みぬまで暮らす会 の歩み

- 2006年 9月 「見沼区介護福祉マップづくり実行委員会」発足
- 2007年 3月 「見沼区介護福祉マップ」第1刷発行
- 2008年 6月 「みぬまで暮らす会・準備会」発足  
介護福祉マップ作成に関わった4名(江野本啓子・嘉成勝子・田口秀之助・長沼和子)が世話人となり、会設立に向かってスタートしました。  
会報「Com. De.みぬま No.1」発行
- 2008年 7月～ 高齢者施設の見学会を開始  
2009年10月まで、先進的かつ健全な運営をしていると評判の高齢者施設を8ヶ所訪問しました。
- 9月～ ワンコインランチとおしゃべりの会「みぬまサロン」開始  
シラコバト長寿社会福祉基金を得て、地域の人々に呼びかけ、ランチの会を始めました。会場は世話人のひとりが居間を解放。2010年3月まで月2回の定例で開催しました。
- 10月～ 連続5回講座「老後を安心して暮らす方法」開催  
さいたま市生涯学習総合センターとの共催で行いました。  
この講座参加者から、心強い世話人が一人(伊多波安子)増えました。
- 2009年 5月 「みぬまで暮らす会・第1回総会」と「コンサート&歌声喫茶」  
これまでのランチの会への参加者や、地域の各市民団体の協力を得て、総会とコンサート&歌声喫茶のお知らせをしました。  
会場は、七里コミュニティセンターの1階大ホール。82名の地域の人々が参加しました。  
このイベントを通じて、私たちの地域には他県からの転入者が多く、地域との繋がりが希薄なまま暮らしている人が多いことがわかりました。
- 5月 「見沼区介護福祉マップ」第2刷発行  
第2刷発行のための再調査により、私たちの地域ではこの2年の間に、高齢者用施設や訪問介護事業所などが2割も減少し、送迎サービスを行っていた施設が皆無になっていること、訪問診療を実施している医院がひとつしかないことがわかりました。
- 7月～ 「共助の家・みぬまハウス」設立プロジェクト開始  
これまでの活動を通じて感じた「高齢期の暮らしの不安」の解決策のひとつとして、地域の人々が孤独に陥らず、いつでも誰でも訪ねてくることのできる場所の必要性を強く実感。「共助の家・みぬまハウス」立ち上げについて、見沼区役所・多目的室に於いて、12月まで討議を重ねました。
- 8月～ 宅配弁当試食会  
暮らしにとって最重要課題の「食」について、自分で調理ができなくなったとき、どんな食生活を選ぶことができるのか。民間の配食サービスを行っている5社の協力を得、2ヶ月かけて、宅配弁当の試食会を行いました。結論は残念なことに、美味しいものはない。費用が掛かりすぎる。
- 11月 「まなびピアinさいたま2009」に参加  
さいたま市主催の「まなびピアinさいたま2009」に、当会代表の嘉成と事務局長の長沼が講師として参加しました。  
イベントの参加者対象が広域(さいたま市全域)だったため、みぬまで暮らす会への効果は少なかった。地域での活動が重要と再確認しました。
- 2010年 1月～ 講座「老後を安心して暮らす秘訣はお互い様の関係づくりから」開催  
地域の集会場・五反田会館で3回連続ワンコインセミナーを開催しました。

第1回は長沼が講師で「介護福祉マップづくりから見えたこと」。第2回は嘉成が担当「支え合いの仕組みづくり」。第3回は地域の若い農業家を招いて「地産地消」について語っていただきました。

3月 「みぬまで暮らす会・臨時総会」開催  
特定非営利活動法人(NPO)の申請について、会員の了解を得ました。

#### 5月5日「みぬまハウス・大和田」オープン

大和田銀座商店街に店舗を借りることができ、改修費には大勢の人々から出資金(一口1万円で110万円)を提供していただきました。そして5月5日、いよいよ「共助の家」のオープンとなりました。  
オープニングは津軽三味線の演奏と民謡、獅子舞で道行く人々にアピール、大勢の人が足を止めてくださいました。

月・火・木・金をミニデイサービス、水曜日はコミュニティカフェと地元野菜の販売を行うこととし、午後はクラブ活動形式にして興味のあるクラブへの参加を呼びかけ、手芸・麻雀・絵手紙・茶道の講師がボランティアとして協力してくださることになりました。

6月～ 土曜講座を開始  
みぬまハウスの土曜日を講座の日とし、NPO法人くらしとお金の学校の村井英一さんを講師に「暮らしのマナー学」を5回連続講座として行いました。広報が不足不備だったため参加者が少なく、企画段階の不十分を

6月14日 埼玉新聞「ぐ・る・り・関東発見伝」欄に、みぬまハウスの記事が載りました。

6月19日 土曜講座「見沼学」開始。  
第1回として、見沼研究家・長沢隆司さんを講師&案内役として、見沼区の史跡を観ながら「菖蒲園」までウォーキングをしました。

7月～ 口腔ケア体験教室・テルミー温熱療法・レディスカイロ始まる  
ケアマネージャーや各施術師の協力で、健康管理のための日もできました。

#### 10月～ みぬまハウス・大和田の事業内容を変更

これまで中心に据えていたミニデイサービスは送迎がなく、自力歩行者や家族による送迎を対象としていたことが理由か、利用者がでてこないところから、運営方法について再構築の必要にせまられ、討議を重ねた結果、運営方法を変更することになりました。

月～金曜日のすべてをコミュニティカフェとして地域に解放し、午後のくらぶ活動への参加を呼びかけ、多くの人に「みぬまハウス」の存在を知ってもらうことから始めることになりました。併せて、支援が必要な人や家族のためには、託老・託児サービスとして引き受ける体制にしました。

10月20日 生き甲斐就労支援のモデル事業となる  
財団法人・健康生きがい開発財団よりNPO法人くらしとお金の学校が受託、「高齢者の生き甲斐就労の機会創出に関する調査研究事業における試行事業」として「みぬまハウス」のコミュニティカフェを中心とした事業がモデル事業となりました。

#### 10月27日 NPO法人の認証取得

みぬまで暮らす会は、NPO法事として、県知事から認証されました。

#### 11月12日 NPO法人の設立登記完了

#### 11月13日 「見沼区民ふれあいフェア」参加

見沼区役所&実行委員会主催の「見沼区民ふれあいフェア」に参加、ブースに出店して、スタッフや手芸くらぶで作った手作り品を販売しました。

会場ではチラシもたくさん配布でき、ご近所に住む人々にアピールすることができました。また、手作り品もたくさん売れて、活動資金も得ることができました。その後、町内会役員始め、フェアで話ができただけの人々が「みぬまハウス」を訪れてくれるようになりました。

講座「緊急時に備えてノートを書こう」開催  
同日、大砂土東公民館に於いて講座を開催。嘉成が講師を務めました。

#### 2011年 1月15日 NPO法人 みぬまで暮らす会 第1回総会

NPOとして法人化した旨を会員に報告し、活動の現況と今後の計画について話し合うため、総会を開催しました。

報告事項:

①NPO取得の件、②これまでの活動報告、③任意団体終了時の会計報告、④任意団体からNPOに引き継ぐ資産負債について、⑤NPO化後の活動及び収支状況について、会場の皆から承認を得られました。

検討事項:

これからの活動計画について、理事からの提案に会場から多くの質問や提案がだされ、今後の活動への協力に賛同の挙手が得られました。